

# 千葉県柏市における都市近郊林を取り巻く

## 管理団体と地域住民の意識調査

2016年3月 生物圏機能学分野 47-146621 菅原幸恵  
指導教官 准教授 鈴木牧

キーワード：都市近郊林、多主体、管理手法

### 1. 背景と目的

都市生態系を理解することは、都市部における残存緑地に生息する生物相の保全や、その緑地が提供する機能をより向上させることへの基盤になり、人間に対する都市生態系の影響を評価する上でも非常に重要である(土屋ほか 2013)。都市部の緑地は人々に対して多様なサービスを提供するが、生物相保全上の優先順位や望ましい生態系サービスは主体によって異なる (Belaire et al. 2011)。都市部の緑地には、緑地を保有する地主または管理する団体や植生管理者、また緑地をレクリエーションの場として用いる地域住民など多くの主体が存在する。住民に対する都市緑地のサービスを向上し、持続させていくためには、都市緑地を取り巻く様々な主体間における意見や要求の違いを整理し、解消していくことが必要と考える。千葉県柏市は東京という大都市の郊外に位置しており、郊外の住宅開発に伴う急速な住民の多様化が現在起こっている。都市に残存している緑地も多く、規模の大きい緑地が点在している。それらの緑地の中には、土地の権利者が都道府県や市に管理を委託したものや、緑地を市民の力で保全・維持しようとしているものがある。このような民間団体は数多く存在し、それぞれ管理目的や管理手法、人員構成などが異なっている。その結果、同じ市内に存在する緑地の間でも自然のありようが異なっており、したがって地域住民へ提供するサービスにも違いが見られる。こうした違いが管理団体の構成員や付近の住民に対して、緑地に対する意識の違いを生んでいることが予想される。本研究では柏市の管理手法が異なる2つの都市近郊林を管理する管理団体と地域住民に対し、緑地に求めることや緑地についての意識を問い、両者間に意識の違いを明らかにする。そして何らかの意識の違いが存在する場合、どのような対策をとる必要があるのかを考える。

### 2. 研究調査地および調査方法

研究対象地は千葉県柏市こんぶくろ池自然博物公園（以下、こんぶくろ池公園）と、千葉県柏市大青田地区の緑地（以下、大青田の森）を対象地とした。いずれも植生は二次林である。こんぶくろ池公園の管理団体の設立は2010年で会員数は約50名、大青田の森の管理団体の設立は2004年で会員数は約46名である。

管理団体の具体的な管理目的や管理手法などの現状を把握するため、2015年8月に半構造化インタビューを行った。ヒアリング調査の結果を踏まえ、さらに詳細な意識調査を行うため、緑地を管理している管理団体と地域住民に対し、緑地管理の活動内容や目的、

認知度、利用頻度、緑地への好み、緑地に求める機能や満足度などの項目を問うアンケート調査を実施した。まず、調査対象地であるこんぶくろ池公園と大青田の森から中間的な位置にあって物理的に両方の緑地を利用している可能性のある、千葉県柏市立十余二小学校の保護者と児童に対し、2016年9月にアンケート調査を行った。こんぶくろ池公園と大青田の森について、それぞれの緑地への認知・愛着、緑地に求める役割やその満足度などに関する設問を作成し、配布した。

### 3. 結果および考察

ヒアリング調査の結果、明らかになった対照的な二つの研究対象地の管理目的や手法が対照的であった。こんぶくろ池公園は「生物多様性の保全」を目標にし、大青田の森の管理団体は「会員同士の絆を育む」ことを目標としていた。

得られたアンケート調査を集計すると、柏市立十余二小学校の保護者および児童において母数の8割近くの回収率が得られ、偏りの少ない結果を得ることが出来た。柏市立十余二小学校の保護者および児童は、2つの都市近郊林に対し、認知や利用頻度、意見などの点で違いを見せた。こんぶくろ池公園では十余二小学校の保護者と児童に高く認知されていたのにもかかわらず、年一回以上利用している人は母集団の2割程度にとどまった。こんぶくろ池公園は生物多様性を保全する自然公園として管理されていたために、地域住民が都市近郊林に求めていた機能や美観上の要望と、管理者が「気をつけていること」にギャップが生じていた可能性が示唆された。

大青田の森は、十余二小学校の保護者や児童が多く居住している地域に隣接していたにもかかわらず、保護者や児童にほとんど認知されていなかった。この結果は、大青田の森の管理団体員の多くが森に「会員同士の交流の場」としての機能を求めており、「自分と利用者の交流の場」を求めていた人は少なかったことと対応していた。一方、大青田の森の管理団体は市から詳細な管理目標を定められていない。そのため、「倒木や危険木の伐採」などの活動は行いながらも、それ以外の活動の自由度が高いために会員の満足度は高かった。

柏市全体を俯瞰したとき、多様な管理目的と手法による様々なタイプの都市近郊林が存在することで地域住民の多様なニーズに合致しやすくなる。現在のような管理活動が継続されていくことで地域住民が実際に都市近郊林でレクリエーションなどに参加する機会も維持され、将来自然に対する興味を抱く可能性も維持されるだろう。

### 4. 引用文献

土屋 一彬, 斎藤 昌幸, 弘中 豊 (2013) 都市生態学序説:「まち」の社会生態プロセスを理解する 日本生態学会誌 63: 179-192

Belaire JA, Dribin AK, Johnston DP, Lynch DJ, Minor ES (2011) Mapping stewardship networks in urban ecosystems. *Conservation Letters*, 4:464-473